



学長のサポート役に就いた

「みんなの丹野さん」。人文
学部の教官はこう呼ぶ。教育・研
究運営をめぐり「丹野学部長、何
とかくして」と助けを求めるとい
「ウン、ウン」とうなずき、問題
解決に「生懸命努力する。」「私利
私欲がない人。全体を考える人」
(ある人文学部教授)。そんな人
柄と学部改編の実績を買われ、副
学長に抜てきされた。

本日は、春から研究に没頭する
はずだった。学部長の重責を異科
勝之教授にバトンタッチして「ア
フリカ研究」に集中するはずだっ
た。しかし、吉田豊学長からの突
然の副学長就任要請。「大変だな
あ」。就任決定後の会見で思わ
ず苦笑いした。

会見では「学長のサポート役に
徹したい。共通教育の見直しに力
を入りたい」と抱負。少子化、独
立行政法人化の動きなど、国立大

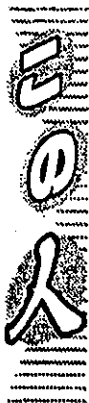
丹野 正さん (だんの ただし)

弘前大学の次期副学長

学を取り巻く厳しい環
境について
は「今後、
国の動きを
どれだけキ
ャッチし、
どれだけ対
応できるか
が勝負にな
ると話す。
多くは語ら
ないが、と
つとつとした語り口に人間的な味
がある。

山形県村山市出身。京都大学で
人類学を学んで以来、アフリカ森
林地帯に暮らすピグミー族の生活
様式、物事への考え方を研究。これ
まで七回、アフリカへ行った。純
朴な現地の人たちと自然と解け合
えるのもこの人のなせる技。「わ
れわれの祖先の縄文人とピグミー
族。共通点もあるが、同じでない
ところもある。説明するのは難し
いなあ」と目を輝かす。

「第二の故郷」弘前市に住んで
二十年。「大都会は性に合わない
から」津軽は気に入っているとい
う。暇な時は本を読む。テレビも
見る。若者の活字離れが指摘され
るが「あまり勉強、勉強と言っの
は好きじゃない。テレビも作り手
の側から見ると面白い。学生には
いろんな視点から物事を見られる
よじになってほしいな」と話す表
情は柔らかい。



(菊谷)